

児童・生徒の現状・課題

・学ぶ意欲の高い生徒もいるが、難しい課題に直面したときに、粘り強く取り組めない生徒も一定数存在する。また、取り組みを振り返り、改善していくことにも課題がある。その場しのぎの課題解決にならない取り組み方を身につけていく必要がある。



学び続ける力を育むための重点目標

○目標やめあてを明確にし、ゴールに向かってどのように取り組むかを選択したり、理解度を振り返ったりすることで学び続ける力を身に付ける。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	71.5%	75.0%	76.1%
②授業のはじめに、学習したことを振り返り、取り組む課題やめあてを確認している。	68.1%	75.0%	71.5%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	70.0%	75.0%	84.6%
②授業のはじめに学習したことを振り返ったり、ねらいを明確にしたりして見通しをもてるようにしている。	85.0%	87.0%	84.6%

具体的な手立て①

授業のはじめにこれまでの学習の振り返りや、めあて、授業の流れを明確にし、「何を」「どこまで」学ぶのか、見通しを持てるようにする。

具体的な手立て②

授業の中で「どのように」学ぶのか、生徒自身が選択できる場面を設定したり、取り組み方を工夫したりして、主体的に学ぶことができるようする。

具体的な手立て③

単元の途中やまとまりごとに振り返りを行い、学習の理解度や課題を確認しながら学習できるようする。

総括(7月)

昨年度のMNE調査において、「授業のはじめに振り返りやねらいを確認しているか」に対する教員と生徒との意識の差が非常に大きいことが明らかになった。そこで、日々の授業を通して生徒自身が「何を」「どのように」「いつまでに」学ぶのかを意識しながら学んでいくことに重点を置いて指導していくことを目標とした。

総括(1月)

生徒が主体的に学ぶことができるよう、選択する場面を設定する教員の割合が増加したことで、個別多様な生徒への対応が少しずつ実践されている。ただ、学習の振り返りや見通しを持った取り組みについては、教員・生徒ともに割合が高いとは言えない。限りある授業数で「何を」「いつまでに」学ぶのか、長期的プランと短期的プランを明確にした上で指導していく必要がある。